

# 令和元年度 東京都立三宅高等学校 学校経営報告

校長 森田 正男

「努力・信頼・継続」を校訓として、高い理想をもち、人間性豊かで平和な未来を開拓していく人材の育成を目指し、教職員一丸となって取り組んできた結果です。今年度の重点目標と方策について、結果を検証し、反省・改善を加え、次年度へ反映させ、学校全体で組織的に取組、今後も「島の宝」を育てていきます。

31年度の数値目標		元年度結果	30年度 ← 29年度 ← 28年度
1	・学力を伸ばすための指導がなされているか肯定意見	100%	95% 85% ← 90% ← 83%
2	・学校生活の満足度肯定意見	100%	75% 73% ← 72% ← 67%
3	・朝読書への取り組み肯定意見	100%	65% 89% ← 66% ← 56%
4	・資格取得（卒業まで） 英検3級、漢字検定3級、ワープロ検定3級、数学検定準2級、農業技術検定3級、家庭科技術検定3級のいずれかに合格	70%以上 60% (3/5名)	33% ← 75% ← 27% (4/12名) (9/12名) (3/11名)
5	・三宅小・中学校との連携が図られているか肯定意見	90%以上	75% 73% ← 69% ← 62%
6	・希望進路の実績	100%以上	100% 93% ← 92% ← 55%
7	・部活動や行事満足度	100%以上	95% 93% ← 72% ← 75%
8	・健康安全に対する指導満足度	100%以上	90% 92% ← 91% ← 94%
9	・保護者・地域への情報発信	95%以上	75% 77% ← 78% ← 83%
10	・施設・設備への取組	100%以上	70% 66% ← 65% ← 67%

## 今年度の重点目標と方策に対する評価

【評価基準】 A：目標レベル以上に達成できた、B：ほぼ目標レベルに達成できた、  
C：目標レベルを少し下回った、D：目標レベルを大幅に下回った

項目	自己評価	達成状況	結果・反省・改善等	
今年度の重点目標	1	A	卒業生5名全員が希望通りの進路を決定することができた。その内訳は、4年生大学（国公立）1名、就職2名、専門学校2である。	希望の進路実現100% 進路指導部を中心に今後も全校体制で指導に当たる。
	2	B	進路指導部を中心とする組織的な指導体制がほぼ整ってきた。大学受験に対応した補習・講習の実施、ケース会議の開催による個々の生徒の学力の共通認識及び把握、放課後や長期休業期間中、土日の学習指導を充実することができた。	学力を伸ばすための指導がなされている肯定意見95% 学習活動の充実を図っていく。
	3	A	日常生活から規範意識の向上が、地域・保護者の協力のもと、十分図られている。生徒会を中心とした各種行事への積極的な参加が、大きな成果へとつながっている。部活動ではサッカー部がフットサル大会や八丈高校との合同チームでの新人大会への参加やボルトリング部が全国大会に2年連続で出場した。	学校行事に楽しく積極的に参加しているか95% 生徒の健全育成に取り組む。
	4	B	朝読書は、継続的に実施できている。総合的な学習の時間で行っているマイ・プロジェクト・アワードで、全国大会に1組代表となった。3年生の家政科課題研究では十分な成果を上げることができた。今年度は英語検定に2名が合格した。	今年度卒業生が各検定に合格した割合60% 生徒の自主的な学習活動へ繋げていく。
	5	B	本校農場での保育園、小・中学校との芋ほり体験、進路指導部による中学校への訪問説明会、中高合同漢字	三宅小中学校との連携が図れているという肯定意見75% 連携内容の工夫を図ってい

			検定・英語検定、保小中高合同作品展、小中高合同マラソン大会、保小中高一貫教育推進委員会による研究協議を実施できた。	く。
	6	避難訓練、火山学習等を通して防災安全教育の充実を図る。	A 年間4回の避難訓練と宿泊防災訓練を1年生対象として1回実施した。消防署や警察署との連携による講話や講演、実演等を通して防災及び危機管理体制の構築へとつながった。	健康安全に対する指導満足度90% 危機管理意識を常に醸成していく。
	7	いじめ・体罰を根絶させる	A 生活指導においては、特に大きな問題点はなかった。朝の立ち番等で毎日の生徒の様子を生活指導部が確認した。問題行動の未然防止に努めた。部活動も全員が入部し、行事への積極的な参加が見られた。	いじめ・体罰への取組85% 学校生活に対する満足度75% いじめ・体罰0を常に掲げ、学校全体で取り組んでいく。
	8	島民との交流による三宅島の復興への寄与	B 学校だよりを年間5回発行、ホームページ更新を240回以上行った。続き学校だよりを島民全戸に配布し、三宅高校での取り組みを理解していただくとともに生徒が島に貢献している姿を広報した。	学校の情報を保護者、地域に積極的に発信している85% 情報発信の継続とその工夫を行っていく。
	9	オリンピック、パラリンピック教育を推進する。	C オリンピック・パラリンピックに関して関連教科での授業を中心に実施した。新型コロナウイルスの影響で講演会を実施できなかった。	校内での推進体制を強化していく。講演会の開催や小中との連携した取組を推進していく。
	10	特別支援教育の推進	B 教育相談・特別支援教育に関する委員会を開催した。全教職員が情報を共有し、生徒理解に努めた。	委員会の開催回数毎年10回 教育相談を含めた指導体制と情報共有を強化していく。
方策	1	・1学年からキャリア教育を充実させ、進路ガイダンスや外部模試を実施し、生徒の進路意識を高める。	A 進路指導部による全6回の進路ガイダンスや学年による個別面談等により、早い段階から生徒の進路に対する意識向上を促すことができた。それぞれの進路に応じた細かい指導を実践できた。	生徒自身の個々の適正に応じた指導の実践を継続する。
		・移動教室において、外部連携をはかり、職業観を高める。	B 1年生での移動教室を内地にて計画通りに実施することができた。ハローワークとの連携や外部講師を入れての進路講話等を通して、生徒自身が自分の進路に対する意識改革が図られた。	内容の精査を行い、次年度へつなげていく。また、中学校とも連携も強化していく。
		・希望進路実現に向けた個別プログラムを組み、大学進学希望者には進学コーディネーターを中心として進路実現に向けた講習・補習を行うと同時に保護者対象の講演会を実施する。	A 進学指導部を中心に各個人の希望進路に沿ったケース会議を実施した。特に進学希望者については、情報共有を図ることによるきめ細かい指導へつなげることができた。	大学進学者に対する学習支援を継続し、校内での体制をさらに強化する。
		・長期休業中、週休日等に組織的・計画的な講習・補習を行って、基礎学力の定着を図るとともに、大学受験等に向けた実力を養成する。	B 生徒の状況に応じた補習・講習を実施できた。基礎学力定着に向けた取組、さらに進学を見据えた内容の学習活動を実践できた。	生徒の自主・自立的な学習へ繋げる学習支援を継続していく。
	2	・英数国理社について、学力スタンダードによる分析及び学力向上委員会を中心として主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善等に取り組む。	B PCによる教育支援教材の導入により若手教員を中心として、授業力向上の必要性を図ることができた。また、教員個々の授業見学の実践により、授業の工夫が図られている。	教務部・進路指導部の連携を強化していく。関係分掌への働きかけを継続していく。
		・公開授業週間・研究授業等を実施し、授業についての研修を行う。	B 研究授業を実施することにより、参観する教員の意識向上が図られた。研究協議での意見の交換により、授業改善に繋げることができた。	生徒の興味・関心を高める授業実践に繋げていく。
		・大学受験希望者に特別講習・補習・個別指導を行う。	A 放課後、土日、長期休業期間を含めて、ほぼ毎日のように個別的な学習活動が実践できた。	補習・補講を継続的に実施していく。
		・放課後学習により家庭学習の習慣を身につけさせる。	B 授業時間以外での定期的な学習を実践できた。定期考査前の管理表の提出を通して、家庭でも計画的な学習習慣の確立が図られてきた。基礎学力の定着には確実に成果を上げていた。	計画的に学習させる習慣を身につけさせ、自主的な学習習慣の確立へ向けて支援体制の強化を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習管理表を活用して、PDCAサイクルを回した学習を行い、基礎学力を向上させる。</li> </ul>	B	学習管理表の提出を通して、定期考査の結果による個別面談等を実施した。継続的に指導を加えたことで、少しずつではあるが成果が見られた。	学年・教科の連携を強化する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝礼、日常の指導の充実及び強化週間等により組織的な生活指導を推進し、時間厳守の徹底・挨拶の励行・授業規律・頭髪服装身だしなみ指導の徹底、道徳心、愛校心の涵養を図る。</li> </ul>	A	月1回の朝礼を実施した。校歌の練習を行い、愛校心を育てることに繋がった。生活指導部を中心とした朝の登校指導で、生徒の状況観察を常に行なった。規範意識の向上が日常的に図られた。	継続的に実施していく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員が清掃指導にあたり、学校美化に努める。</li> </ul>	A	生徒が自主的によく動き、清掃活動を行った。全教職員による指導で校内美化意識も高まった。	継続的に指導を実践していく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談委員会を中心にスクールカウンセラーと連携をとり、指導の充実を図る。</li> </ul>	B	養護教諭を中心として、SC を交えた教育相談委員会を定期的に開催することができた。情報共有が図られた。	連携を強化し、情報共有を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー対策委員会との連絡を中心に教職員のアレルギーへの理解を深め、保護者との連絡を密にする等、指導の充実を図る。</li> </ul>	B	宿泊行事等でのアレルギー対応を養護教諭と関係教員で事前に把握し、共有化を図った。	学校全体での情報共有を図っていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動、学校行事を更に充実させる。</li> </ul>	A	すべての学校行事について生徒の積極的参加が見られ成果を上げた。部活動についても、大会参加等が積極的に実践できた。ボルダリング部は2年連続で全国大会に出場することができた。	生徒の自主性をさらに磨き、次年度も継続して取り組んでいく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会・委員会活動指導の充実を図り、生徒の自主的な活動の支援を積極的に行う。</li> </ul>	A	三宅島開催の島しょサミットの成功や緑化プロジェクトへの参加により、生徒会の生徒会活動の活性化が図られた。丁寧な指導により生徒会の実行力が高まった。	行事や委員会活動を生徒会の自主性で運営できるように継続した指導を実践する。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動に積極的に参加する。</li> </ul>	B	保育園・小中学校との合同行事や体験活動での連携が図られた。村の行事等へも積極的に参加できた。	保小中との連携については内容等を工夫し今後も継続していく。村の行事への積極的な参加を促していく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の目標を設定する。</li> </ul>	C	生徒へ年間を通した目標を設定することを啓発したが、具体的な実践までには至らなかった。	向上心の育成につなげていく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>島しょサミットの開催に向けて、計画・実施を推進する。</li> </ul>	A	三宅島開催の島しょサミットの計画・立案・実施を生徒の自主的な取組で成功に導くことができた。	島しょ高校との情報交換の機会を工夫していく。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の読書を全校一斉に実施し、読書習慣を身につけさせる。</li> </ul>	B	週5回の朝読書から3回読書、2回新聞の写経を実施した。続けて成果を検証していきたい。	生徒の自主的な取組へとつなげていく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビブリオバトル(書評合戦)の校内予選を行う。</li> </ul>	B	校内選考会や発表を通して、プレゼンテーション能力の向上が図られた。2年生1名が三宅高校代表として都の大会に参加した。	次年度も指導内容の工夫を図り、継続した指導を行っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字検定・数学検定・英語検定・ワープロ検定等の受検者の指導を通して、基礎学力の向上を図る。</li> </ul>	B	漢字検定・英語検定への受験を推進した。指導を通して、基礎学力向上に繋がられた。	指導の工夫で、より多くの受験者を確保していく。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業実習、プランターの提供、本校生徒による保育実習等を行う等、保育園や小学校等との連携を推進する。</li> </ul>	B	保小中との芋ほり体験や家政科の生徒による保育実習を授業で行った。	内容等を工夫し、継続的指導の強化を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高連携を見直し、6年間を通した学力向上・キャリア教育等の方策について検討する。</li> </ul>	B	保小中高一貫教育推進委員会の活動を通して、研究の成果を共有できた。中学校からの6年間を見通した学力向上・キャリア教育の推進にはもう少し時間をかけていく必要があった。	保小中高一貫教育推進委員会に積極的に参加し、中学校との連携の工夫と強化を進めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生とその保護者対象の学校説明会・体験授業、部活動交流、中高合同検定試験の実施等により中学校との連携を推進する。</li> </ul>	B	学校説明会を予定通り開催した。農業科・家政科による体験入学会を開催した。部活動の交流や検定試験を中学校と合同で実施できた。	連携の内容を今後も継続的に検証していく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>マラソン大会を小中高合同で計画的に準備を進め、合同で実施する。</li> </ul>	B	保小中高の合同マラソン大会を実施できた。発達段階の違いを考慮した内容で実施できた。	行事の内容等を検証し、継続していける体制を構築する。
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊を伴う避難訓練を含め年間4回の避難訓練を組織的・計画的に実施する。</li> </ul>	B	火事、火山ガス、地震、台風、不審者対策等、様々な災害を想定して、避難訓練を経過通りに実施した。危機管理意識の向上につながった。	内容を工夫し、継続的に実施していく。

	・防災教育の充実を図る。	B	防災教育推進委員会を中心に、宿泊防災訓練等を通して、1年生から危機管理意識の向上につながった。また、防災マニュアルの内容の見直し、活用が図られた。	年度ごとに防災マニュアルの確認を継続していく。
	・火山ガス、泥石流に対する防災・安全対策を図る。	B	火山ガスについては、数値0となっており、島全体で安心安全な状況であった。避難訓練で実践した。	緊急時を常に想定した内容の工夫を継続していく。
	・登下校時及び校外学習時等における安全対策を徹底させる。	B	避難訓練や宿泊防災訓練を通して、登下校時の安全対策への意識向上が図られた。	緊急時を想定した実践の継続を行っていく。
	・施設設備の再点検を行い、校内での危険箇所を修繕して、戦略的な整備計画を作成する。	A	経営企画室の施設担当者を中心として、年間を通して、校内での危険箇所点検等を行った。	常に危機管理意識の向上を図っていく。
	・防災用品備蓄倉庫の整備及び防災用品の充実を図る。	A	経営企画室が中心となり備蓄倉庫及び防災用品を総点検した。	常に整理・確認の実践を継続していく。
	・警察と連携してテロ対策の避難訓練を入れて、緊急事態に備える。	B	今年も不審者を想定したテロ対策を行った。危機管理意識向上につながった。	防災教育推進委員会を今後も強化していく。
7	・複数の教職員の目で生徒の状況を観察して、異変に気づいたらすぐに報告する体制をつくる。	A	生活指導部による毎朝の校門指導を行い、生徒の状況把握を図った。年3回のいじめのアンケート調査を行った。"	生徒の継続的な状況把握を行っていく。
	・体罰を伴う指導はしない。また、体罰を伴う指導が起きないように研修会を行う。	A	服務事故防止研修の実施や体罰調査を学期に1回行い、体罰による指導が行われていないかをチェックした。	校内研修や実態の把握を継続して行っていく
8	・学校開放・公開講座・ボランティア活動・図書的一般貸し出し等により、地域貢献を推進する。	A	体育館、グラウンド、剣道場、柔道場、テニスコート、図書館等の学校開放ができた。公開講座を2講座実施した。	次年度も継続して実施する。
	・三宅島復興・発展につながる島内のイベントに参加・協力・貢献する。	A	小中合同マラソン大会、保小中との連携を積極的に行った。島内の行事へ積極的に参加できた。	次年度も継続して実施する。
9	・メダリストによる講演会を実施する。	C	ボルダリングの選手を講師として開催予定ではあったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の臨時休業措置により中止となった。	実施の方向性を継続的に検討していく
	・体育の実技の時間で、スポーツクライミングを体験する。	B	体育の授業で全生徒がボルダリングを体験できた。	郊外の施設活用を積極的に推進していく。
10	・特別支援コーディネーターを中心として、個別の指導計画を作成する。	B	個別の支援計画を作成するほどの生徒がいなかったが、教育相談委員会にて情報共有を図った。	状況に応じた対応を工夫していく。